



RNC 西日本放送ラジオ番組

CHIT CHAT RADIO 子育てCHAT ROOM

2020年5月19日 13時25分～13時47分

ー前回「非認知能力」がどういふものなのか、またステイホーム期間中は親子の土台づくりのチャンスだというお話を伺いましたが、「非認知能力」、いわゆる「人間力」と言われていたものが、「非認知能力」ということで学問としても成り立っているという事でした。なるほどなるほどというお話が非常に多かったんですが、今回はですね、ニュースでも頻繁に出るようになってきた「虐待」について先生に伺ってまいりたいと思います。そもそも「虐待」とはどのようなことを言っているのでしょうか。

みなさん、「虐待」というとニュースで見聞きするような、子どもを叩いたり殴ったり水風呂に入れるとか、それで死なせてしまつとか、いろいろなイメージがあると思います。そもそも虐待というのは、他の言葉では「マルチリーメント」と言つて日本語で「不適切な養育」になるんです。私たちが言つ「虐待」というのは、非常にきついイメージがあると思うのですが、不適切な養育をする」と「自分が虐待なんだ」ということです。私たちは叩くけど、そんなに強く叩いてないから虐待じゃないとか、傷つける意思がないとか、子どものことを思つてしているとか、いろいろな言つわけなんですけど、子どもが傷つく行為はすべて虐待とする、不適切な養育とするとなっております。

ー親がこれはしつけなんだと「こいつはなぐ、受け手の子どもたちがどう捉えるか」ということになって変わるという事なんでしょうね。

はい、そういう意味で、いじめやセクハラ、パワハラと同じで、する方の意図ではなく、子どもが傷つくこととはすべてマルチリーメント、虐待になるという事です。

ー今は暴力もそうですけど、言葉での虐待も問題になって来ますよね。

はい、いろいろな種類がありますね。

ーどうなんでしょう、子ども側がどう受け取るかによって変わるという事なんでしょう、虐待なんてそんなつもりなかったけどって人もいらつしやると思いますが、実際親が虐待を経験している人は多いのではないでしょうか。

アンケート調査では八割以上の方が不適切な養育をしています。香川県内で私がアンケートをした時も七割の人がそうで、大体ほとんどの人がしていると思われれます。その中で自分が虐待をしているという自覚があるのは三割程度になるので、ほとんどの人はそういう気はないけど子どもに精神的、言葉や、身体的に危害を加えていることはあり得るわけで、もちろん私もたくさんしてきましたと思います。しない方がいいのだけれど、多くの方が知らず知らずに意図せずに行っているという事は多いと思います。

—私はいじめられてたまたまのせいだと思ってもらえないのか、それで悩んでいるといった感じなんでしょうか。

そうです。「私が子どもを叩かなければいじめが止まるのか、子どもを何とかしてもらえませんか」という形で相談に来られる方が多いなと思いますね。

—相談に来るといふ事は「」の状況をよくしたいのにな、どうしたらいいかわからないという教育熱心な証拠だと思っておりますね。

そうですね。それが大きな一歩だと思いますね。何とかしたいというのが一つですよ。その次に自分がしていることが効果的にしつけをしているかどうかはなにかと気づくことが、また大きな一歩で、体罰を与えずに子どもに接する方法を学んでみようとするのがまた大きな一歩になるという事だと思えます。

—先生のお話を聞いていけると虐待といふのは身近にあると感じると思いますが、誰でも可能性があるわけ、どうしたらいいんですか、いじめ、いじめの持ち主といふか考え方といふか、子育てをする上でどう考えたらいいのでしょうか。

結局不適切な養育が虐待なわけなので、適切な養育の仕方を知るといふのが大事なことだと思いますね。まず、不適切な養育をするのがいけないのかという事を知ることが大事で、親はしつけをするために叩くと言いますが、叩くと言いつつ何を聞かせると子どもは自分の思い通りにするには叩くはいいんだといふこと、親の機嫌を損ねるのは大変だといふことを学ぶわけです。そうすると暴力を使われたり怒鳴られたりすると人の顔色を見て行動をすることを覚えたり、暴力を使える相手を探してストレスを発散することを学ぶわけです。例えば弟妹にしたり、弱い同級生にしたり、下級生をいじめたりすることでストレスを発散していいんだ、すればいいんだといふことを学ぶので、そういうことは適切にしつけになっていないという事をまず知るのが一つです。誰も子どもに人の機嫌を見ることが暴力をふるえば何でもできるんだといふことを学んでほしいなと思ってないわけです。そして次に適切に子どもに教えることを知るといふのが大事かなと思います。

—親に思いがあってもやり方が間違っているのですれが生じている。ノウハウがわかれば、ちゃんと子どもと気持ちを通じていい方向に導くことができるわけですよ。難しいですね。自分たちが子どもの頃は当たり前のように頭をげんこつで押さえられてダメだわってのが、いじめに当たり前にあったので、自分では悪いことかと思ってなくて教育のためだと思ってしまっ親御さんも多いんじゃないかな。

—いじめの世代間ギャップといふか。

ただこれは考え直さないといけないなと今、例えば鈴木先生のような研究をされている方々がちゃんとおっしゃっているわけですから、そのノウハウを学びたいですよ。

—最初はちやうど照れくさくなったら、「今日は熱々だねー」とか「今日のはおっつりね」でもついわけですよね。

お母さんがいつも違って機嫌よく「飯を食べているだけでも「褒美」になるわけですよね（笑）

—最初、何とも言えない空気感になったりしますからね。なかなか来なかったりするよ。お母さん怒ったりして（笑）

せつかくの「飯が台無しに」（笑）

本当にあるあるという話ばかりですが、子育てチャットルーム、子育て世代に向けて今後もお送りします。